

事務事業名	雲南ブランド化プロジェクト・都市間交流促進事業(雲南応援団)(知と智の地域づくり事業)	所属部	政策企画部	所属課	政策推進課
政策名	(VI)推進計画・地域経営によるまちづくりの推進	所属G	雲南ブランド推進G	課長名	佐藤 満
施策名	(39)計画的なまちづくり	担当者名	加藤雄二	電話番号	0854-40-1011
目的	施策	意図	計画的に目標を達成する。	(内線)	3512
基本事業名	(117)横断的プロジェクトの進行管理	予算科目	会計 款 大事業 大事業名 0 1 1 0 0 1 項 目 中事業 中事業名 0 5 3 5 0 8	企画総務管理事業 中山間地域活性化支援事業	
目的	各部局にまたがる事業	意図	計画的に事業を推進する。		

1 現状把握【DO】

(1)事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (19年度～)
<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～年度)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
建築学を専攻する早稲田大学古谷研究室をはじめとした学生たちを招き、地域住民と遊休施設等の活用方策のワークショップや交流を通じ、地域づくりや人材育成をすすめるもの。

(2)事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動					
	24年度実績(24年度に行った主な活動) ・事務手続き(特に、大学側との連絡調整) ・地元調整等活動支援	25年度計画(25年度に計画する主な活動) ・事務手続き(特に、大学側との連絡調整) ・地元調整等活動支援				
	② 活動指標	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(計画)
	ア プロジェクト数	回数	3	5	6	4
	イ					
	ウ					
	エ					

(3)事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(計画)
	①市民 ②学生	ア 人口(推計人口)	人	41,917	41,159	40,548	40,440
		イ 大学生数(文科省調査)	千人	2,887	2,893	未確定	未確定
		ウ					
	② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(計画)
	①積極的に学生と交流する。 ②雲南市に交流を目的に多くはいてくる。	ア プロジェクト数	回数	3	5	6	4
		イ プロジェクトに関わる大学生の延べ参加者数	人	56	52	31	60
		ウ					

(4)事務事業のコスト

① 事業費の内訳(24年度決算)	② コストの推移	単位	22年度(決算)	23年度(決算)	24年度(決算)	25年度(計画)
・委託料 2,005千円 ・報償費 98千円 ・旅費 134千円 ・使用料及び賃借料 118千円 ・需用費 335千円	財源内訳	千円				
	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円	1,001	1,393	1,324	1,250
	地方債	千円				
	その他	千円	1,001	1,393	1,366	1,250
	一般財源	千円				
	事業費計(A)	千円	2,002	2,786	2,690	2,500
	正規職員従事人数	人	1	2	2	
	延べ業務時間	時間	700	642	600	
	人件費計(B)	千円	2,722	2,531	2,351	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	4,724	5,317	5,041	

(5)事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
廃屋を改修した農家レストラン、廃校を改修した人間交流センターなど、学生との関わりによって再生された交流施設が増えた。また、地域住民の施設に対する思い入れもさらに深化したものとなっている。さらに、取組みの成果として県内の大学生との関わりも増えてきたことがあげられる。	地元の受け入れ体制を整え、効率的な交流に努めている。島根大学の学生に参加を積極的に呼びかけたところ近年、増加している。	学生との関わりが生まれた地域住民からは、継続的な学生との交流を求められている。また、中高生と大学生との交流などに対しては、キャリア教育の視点で学校関係者などから評価をいただいている。中高生と作成したアイテムについても様々な場面で継続的に活用されている。

事務事業名	雲南ブランド化プロジェクト・都市間交流促進事業(雲南応援団)(知と智の地域づくり事業)	所属部	政策企画部	所属課	政策推進課
-------	---	-----	-------	-----	-------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性	この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？	見直し余地があるとする理由
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	* 余地がある場合⇒
	② 公共関与の妥当性	なぜこの事業を市が行わなければならないのか？ 税金を投入して達成する目的か？	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	* 余地がある場合⇒
	③ 対象・意図の妥当性	対象を限定・追加する必要はないか？ 意図を限定・拡充する必要はないか？	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である	* 余地がある場合⇒
B 有効性	④ 成果の向上余地	成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方はあるか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	<input type="checkbox"/> 向上余地がない	理由 雲南市のまちづくりに関わる学生の輪が年々増えているところでもあり、継続的な取り組みにより、成果の向上余地は見込まれる。そのために、都市間交流の対象者のネットワークをさらに強固なものとしていくことが必要である
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	
	<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有	理由 学生のまちづくりへの参加は地域住民に対しても良い刺激を与えている。廃止・休止した場合には、その機会を失うとともに、雲南応援団のネットワークが途切れ、交流人口の減少に繋がる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？	
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある	* ある場合⇒ <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない	(具体的な手段や類似事業名) 他の交流事業などと有機的に連携することは考えられる。
	<input type="checkbox"/> 他に手段がない		理由
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地	成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある	<input type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 学生の滞在経費などを地域に協力を求めることでさらに削減する余地はある。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある	<input type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 大学と地元、大学と大学など、極力市を経由せずに連携できる体制へ移行していくことで、事務の効率化を図る。将来的には、こうした取組みのマネジメントを担う組織づくりなどが必要であると考えている。
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由 地域課題解決を図り、市全体のまちづくりをすすめるものであり、個別の受益者への支援ではなく、適正である。
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)
	A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	早稲田大学との連携については、日程調整等が上手くいかず、市内でのWSなど準備不足の面も多々あった。計画的に取組みをすすめる必要であるが、課題であった、島根大学との連携が少しずつはあるが図れてきたので、今後はさらに強化していきたい。
	B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	
	C 効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	
	D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果																							
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> <p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上	●			維持			×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上	●																						
	維持			×																				
	低下		×	×																				
<p>○早稲田大学古谷研究室の学生を中心に地域住民とともに計画づくりなどを実施してきたが、22年度からは、包括協定を結んでいる島根大学の学生も参加するようになり輪が広がった。今後は近隣の大学との連携も更にすすめていきたい。</p> <p>○雲南市の地域づくりに「若い力や発想、外からの視点、大学の知」の導入を一層図り、地域活性化に貢献する取組として充実させたい。</p> <p>○他財源を活用した交流事業とのタイアップも検討していくこととしている。</p>																								